

1. 家政学は家庭の経営について研究する学問であり家政学部および家政科はその研究および教育の場であると思う。しかるに現在までこれらは大部分栄養士・繊維製品技術者等の職業教育の場となっており、このことがほとんど怪しまれていない。これは関係者の家政の本質に対する無関心と非論理性とに基づくものであり、家政学の確立と発展を阻んでいる大きな原因であると思う。わたくしは家政と職業との違いを論理的に明らかにし、現在までの職業教育から真の家政の教育に向かうよう関係者に訴えたいと思ってこの論文を草したのである。

2. 思索的、論理的方法による。

3. 家政学は家庭生活の研究でなくてはならない。家庭生活は非職業的なものである。食物の研究・教育も被服のそれも、職業としてのものでなく、家庭生活の中のそれとしてのものでなくてはならない。一般に職業としての研究・教育は専門的・細分的であるが、家庭におけるそれは総合的・全体関連的であるべきである。職業としての被服・食物の研究・教育は被服・食物のそれが目的であるのに、家政におけるそれは家庭生活の研究・教育との関連・手段としてのものである点に大きな差異がある。生産者の立場と消費者の立場の差異もある。家庭生活と職業とは分離しつつある。家政科は職業教育・生産教育の場ではなく、消費教育・人間再生産教育の場ではなくてはならない。